



インタビュー

デザインから見た家具・木工の潮流 安全対策など機能とデザインの融合を

拓殖大学工学部デザイン学科 阿部眞理教授

白石照美准教授



家具製品や木工品は様々な素材開発やデザインの潮流を受けて常に時々刻々変化を続けている。耐久性、安全性、コストパフォーマンスなどの要素を取り入れつつ、優れたデザイン性を有する木工製品の最前線はどうなっているのか。今回は拓殖大学工学部デザイン学科で教鞭を執り、日本デザイン学会で家具・木工研究部会の主査を務める阿部眞理教授と、同じく幹事を務める白石照美准教授に素材やデザインから見た最新の木工製品について話を聞いた。

—まず、日本デザイン学会における家具・木工研究部会の活動内容とはどのようなものでしょうか。

阿部

私達はインテリアおよびプロダクトデザインを専門としておりますが、デザインにおいて材料は重要な要素となります。中でも木材は魅力あふれる材料で、学生たちにも加工しやすいため、取り上げる機会も多くなります。私の場合、木材を改質あるいは新たな木材料を開発し、その用途提案を行っています。材料の開発にあたっては、デザイン以外を専門とする研究者と共に進めています。

日本デザイン学会にはいくつかの研究部会がありますが、その中でも家具・木工研究部会は比較的古い方であり、発足から30年以上経っています。ただ、最近では木材や木工を取り上げる研究者が少なく、研究部会としては低迷している感が拭えませんが、部会に所属する研究者の研究テーマとしては、やはり家具が中心になります。木材を使って、どうデザインするか。木製家具の歴史はど